

追悼碑記録写真

杉浦吉弘さん 昭和 30 年卒業

この記録写真集は、昭和 32 年の遭難事故を起こしたことから、当時の現役部員と O B 会が一致協力して、故本田修蔵君の遭難追悼碑を建立したものであります。幸いにして、杉浦吉弘さん（昭和 30 年卒業）が武蔵工業大学建築科に在籍していたので、杉浦さんを中心に建設に関する企画設計・工事計画を進めました。翌年 8 月には見事に遭難追悼碑が完成したものであります。また、昭和 58 年 8 月には一度修復工事を行っています。そして、平成 19 年には大々的な改修工事を行いました。その時の記録写真をまとめてこのページを作成いたしました。

平成 17 年秋

9 月 26 日

焼峰山に登り追悼碑脇のモルタル製休石（創建時余ったモルタルで作成）に腰を下ろし、東の蒜場山・北の二王子岳・西の金鉢五頭連峰の昔と変わらない姿を眺め終わり、脇の碑に目を移すと昭和 33 年建設された表面は無数に亀裂が走り、そこから浸みだした石灰質のダレ、頭部に生じた亀裂は天盤部分の浮きをハッキリ示している遭難の翌年夏に現役と卒業生 = 皆まだ若く青春真っ直中、実行力が有りました 一致協力して約一ヶ月（7/13～8/10）正味山に入ったのは 8 日間追悼碑の建設に当たり、お盆前に除幕式終了創建時の碑の形は、鉄筋コンクリートを芯とし外側に仮枠を組み中へ白モルタルを流し込み覆被せる設計でした

碑のサイズは、部報焼峰 13 号（遭難特集号—高校山岳部・かいらぎ山岳会共同発行）によれば

碑本体 高— 2 尺 1 寸 横— 2 尺 9 寸 奥行— 1 尺の台形

石盤 正面 縦— 1 尺 1 寸 横— 1 尺 5 寸 重量 12 貫（45 kg）

裏面 縦— 1 尺 1 寸 横— 6 寸 重量 3 貫（11 kg） 当時は

尺貫法表示の時代でした



11 月 26 日

来春準備のため壁面モルタルの浮き具合確認のため、ハンマーとピックで一部ハツリ落としてみる案外簡単に出来た来年のピッチは順調に進みそうだ。

正面に納めて間もない奉納文をみる、現在も遭難の体験が語り継がれているのを知る

平成 18 年春

6月2日

春が来た、碑は昨年と変わらない表情で迎えてくれる。

ハンマーとタガネで本格的にハツリ作業に取りかかる、壁面モルタルは下地のコンクリートから浮いているため作業がはかどるハツリ取ったモルタル屑は集めて袋に入れ、その日の作業終了後梱包するシートの端の押さえとした。

その日の作業終了後に掛けるブルーシートで辺りが明るくなり環境に優しく見えた正面に OB 会が作業を行っていることを示す看板を取り付けた。



ハツリ作業は順調に進む、毎回作業終了後ブルーシートで包む碑の形も小さくなり、わきが寂しくなる

改修の考え方は、建設時のモルタル（厚さ 2 寸 = 6 cm）をハツリ取り、そこに新たに白モルタルで包み直す計画でした。モルタルの打ち直しは地中 7 cm までハツリ取、その上に行く計画でしたが、地面近くから地中に掛けての壁面モルタルは下地コンクリートに密着しハツリ作業がなかなか進まない、碑周辺掘り下げで生じた砂礫を入れた袋だけが増えた

11月9日

越冬用に養生（冬囲を行う？）をする、取り外した石盤を麻袋に入れ既存のコンクリートに沿わせて春の融雪時に四散しないようにした、また雪の重みでブルーシートが裂けないよう、コンクリート上部角に新聞紙等でパット養生を施してからシートを二重にして包み最後にブルーシートの端はハツリ屑や砂礫を入れた袋で押さえ、冬の強風に耐えて春を待つことにした



平成 19 年春

2月24日

改修方法は当初考えられた既設の壁面モルタルをハツリ落とし、新たに白モルタルを打ち直すことは地面付近のモルタル撤去が労多くして時間的に不可能と思われることを伝え、検討の結果改修方法は現在のような形になりました

改修方法は現在の塔頂部 33 cmをカットし外側全体を厚さ 8 cmの白モルタルで包む計画に決まりました



4月14日

改修実施相談会開催

開催に先立ち連絡文を北は北海道から南は九州まで住所の解る全会員に発送した

発送総数 150 通 (内返送住所不明 12 通・没 6 通)

【資料・・・相談会開催案内文】

碑の現況写真

碑の改修案

改修工事工程表

連絡文で約束しました改修工事の節目節目における進行状況報告を絵葉書で行う件は 6 号まで発行、特に 3～6 号に掛けては改修作業のピッチが上がりハガキ発行作業が追われるという嬉しい悲鳴を上げました

4月28日

林道終点にかわいい建設資材集積所が開設いたしました



4月30日

修蔵峰に初荷を上げるケイ砂を 8 袋 = 40 kg ハツリ作業終了し碑を包む時初荷のケイ砂袋と内ノ倉斜面より取った雪を入れたビニール製の大袋 (モルタル練り時の水確保試験のため) も一緒に入れる





5月1日
三和車体倉庫で荷上用建設資材の袋詰め
ケイ砂・白セメント共各
5kg/袋
袋 = 厚手のビニールを
二重に使用

5月2日
連休中の峰への荷上げを期待してケイ砂28袋を集積所に搬入した、はみ出した袋は後ろに積み上げブルーシートで覆い紐を掛ける
荷上参加人名簿を置いて荷上資材数量と日付氏名を記入願い、荷上げされた資材を確認した

5月5日

碑は大型ハンマーによる本格的ハツリ作業を進めた結果、作業後のブルーシートで包まれた姿は高さを感じさせない物となった修蔵峰にもケイ砂集積場所を設け、荷上げ協力戴いた方々に感謝の意を表す看板を付けた



5月12日 三和車体倉庫まえてブロックの作成

ブロックの重さは 5kg/個 おおきさは 縦・横・高=15cm・15cm・12cmとし亀裂防止に化学繊維補強材入りとした、固練りのため練り方は交代を繰り返した



5月13日

追悼碑は大改修となりコンクリート上部をハツリ落とす作業に入るハツリ落としは木制定規の下に張った糸に触れる部分までとする



5月26日

登山口に資材置場案内板設置会員以外の協力者から資材置場不明との情報が入り急遽取り設けた

6月10日

最後の荷上げ

練り桶・シャベルを背に林道終点集積所を出発する荷上隊の一行、修葺峰付近一帯は白セメント・ケイ砂・ブロックを入れたビニール袋と仮枠や丸刈練り道具で足の踏み場もない混雑です



7月1日

モルタル打ち込み作業

モルタル練りは下界での経験を生かし、水を加えてからも十分に練り亀裂防止材を投入してから十分に練る、練り桶を2つ使い交代で作業を進め



7月8日

山上での最後の作業

仮枠解体とモルタル表面の仕上げのあと、午後には竣工式へと続きます



仮枠解体後表面研磨中



石版清掃中



午前の作業終わり一服中



石盤を水平近くにセットしたため太陽光の陰が出にくく、彫り込んだ文面が読みにくい。白ペンキで塗る見やすくする改善作業中



9月9日

竣工年月記入石盤の埋め込み、当初は竣工年月記入石盤の埋込計画はなかったがモルタル打ち込み時仮枠と既設のコンクリート上にセットした石盤との間に偏りが生じた会長よりの話で、竣工銘板はあるのかとの問いもあり、急遽太田(昭33卒)さんの提案でモルタル表面に木片を埋め、これに合わせて銘板を発注し、出来上がった時点で木片を外しモルタルで固定した